

## 令和2年度 研究外部評価（事前評価）におけるコメントおよび対応

整理番号	テーマ名	評価点	総合評価
20-P2	AIを用いた動画からの状態監視技術の開発	16.5	B
研究期間	令和3年度～令和4年度（2ヵ年）		
研究概要	静止画では見分けがつかず、動画によってはじめて判明するような現象を判別できるAI技術を開発し、検査等の自動化の範囲を拡大する。		
外部評価委員のコメント			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術は既知のものです。生産現場で活用されている事例は少なく、本研究の完成により広く普及に貢献できることを期待しています。</li> <li>・テーマとしては期待したい内容となっています。開発期間の短縮についても検討願いたいです。</li> <li>・産業界においてAI、IoTの活用は大いに期待されています。具体的な活用方法を例示することは、極めて重要なことと思います。研究成果を期待します。</li> <li>・色々な応用範囲が考えられる有意性の高い研究だと思います。大変期待しています。</li> <li>・産業的にニーズが高い技術とされます。2年間の実施計画の明確化、具体化が望まれますが、早期の成果創出と技術移転を期待したいと思います。</li> <li>・異常定義から正常学習へシフトしたことは非常に納得できます。正常を学習し、それ以外を異常と判断する高精度監視に期待しています。また、様々な装置へ展開できる標準化にも期待しています。</li> <li>・昨年度までの静止画による正常データの学習による異常検知から1ランク上げ、動画からの異常検知による状態監視の監視は社会のニーズに沿っているものと判断できます。動画は静止画の細かいコマ送りからの判断とのことだが、扱うデータ量が膨大となってくることより一般的なPCだと課題も出てくることが考えられます。より多くの企業が容易に取り扱うことができる工夫も必要と考えます。</li> <li>・非常に重要な開発テーマであり目標をクリアできるようにして欲しい。解像度を高くしても判定が可能となるような工夫が必要です。</li> <li>・検知精度90%をさらに向上される事を望みます。90%では検知装置として使用できないものと考えられます。</li> </ul>			